

平成 28 年のブドウ主要病害の発生経過と今後の防除対策

本年のブドウ（露地および雨よけ栽培）における主な病害の発生状況をまとめました。病害の発生した圃場では、休眠期の防除対策を徹底してください。

1. 晩腐病

主に果実に発病する。被害果は表面に鮭肉色の孢子粘塊を生じ、果実に多数のしわが寄り乾燥固化する（写真左上）等、商品価値を失う。例年 8 月頃から発生が見られ、収穫期にかけて増加する。本年 8 月下旬には、露地の一部圃場で発生し、発病果房率は平年より高くなった（本年値 9.2%、平年値 1.2%）。

【休眠期の防除対策】

果梗の切り残し、結果母枝、巻きひげ等は、病原菌の越冬場所となるので剪定時に取り除き、適切に処分する。また、発芽前の休眠期防除を徹底する。例年、晩腐病が多発する園では、雨よけ栽培の導入を検討する。

2. ベと病

主に葉、花穂（果穂）に白色の毛足の長いかびを生じる（写真右上）。葉に発病すると黄変し、発病が激しいと落葉する。また、果穂に発病すると果実の肥大が停止し、商品価値が低下する。例年 6 月頃から発生が見られ、その後 9 月にかけて増加する。本年は 7 月に発生を確認し、9 月下旬は平年より多い発生であった（図）。

【休眠期の防除対策】

落葉は翌年の伝染源となるため、集めて土中深く埋める等、適切に処分する。

3. 褐斑病

葉に黒褐色の病斑を生じる（写真左下）。発病が激しいと早期に落葉する。例年 7 月頃から発生が見られ、9 月にかけて増加する。本年は 7 月下旬に発生を確認し、8 月は平年よりやや少なく推移したが、9 月下旬に急増し、平年よりやや多い発生となった（図）。

【休眠期の防除対策】

病原菌は、落葉や幹の粗皮間隙、結果母枝等で越冬し、翌年の伝染源となる。そのため、落葉は集めて土中深く埋めるとともに、結果母枝等は剪定時に取り除き、適切に処分する。



写真 ブドウ主要病害による被害

左上：晩腐病
右上：ベと病
左下：褐斑病

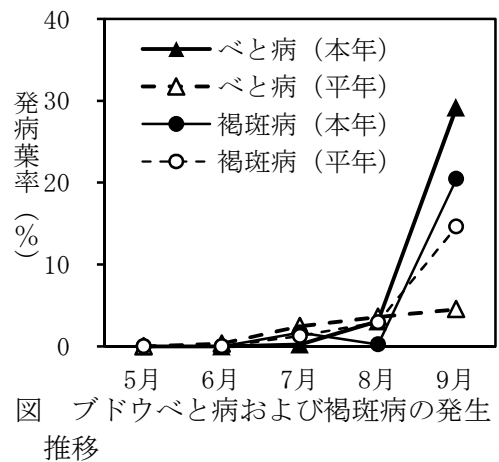


図 ブドウべと病および褐斑病の発生推移